

広島に行ってきました

この週末は、広島に行ってきました。夏に3年ぶりに行くであろう羽村・青梅市の平和啓発企画、中学生広島派遣の下見、いろいろな方にお会いし、話を聞き、8月の打ち合わせをしてきました。

中でも2日目に訪ねた広島市郊外、草津・教専寺の故選一法さんと1年ぶり（昨年、7月の下見でだけちょっとお会いしている）の再会は、うれしいことでした。一法さんは、原爆投下当時小学生で、疎開していたため被爆は免れます。

でも、お兄さんの宏行さんが広島二中1年生、勤労動員で爆心にほど近い本川土手で建物疎開（防火帯となる広い道路づくりのため）作業中に被爆しました。かろうじて生き残り、大やけどをおいつつ、途中で馬車に乗せてもらったりしながら、その日のうちに爆心から5km離れた自宅の草津教専寺にたどりつきます。が、お母さんに看とられ、翌7日に亡くなります。そのような、広島二中1年生322人全滅のようすを、おえるだけおった『いしづみ』という本（もともとは広島テレビのドキュメント番組）に載っています。

その宏行さんには、さらに下に妹さん（一法さんより下に。当時3歳で宏行さんを看とっている）がいて、その妹さんがかつて一中にいた先輩、同僚の岩崎先生（故人）の知り合いであったことから2000年に一中の広島修学旅行で、事前学習から全員で『いしづみ』を読み、修学旅行当日、広島二中慰霊碑の前でお話をしてもらいました。一法さんは、誰からの紹介でもない一中とつながる被爆関係者だったので。



そんなご縁から、2003年の広島修学旅行、そして2014年から始まった羽村・青梅市（2014年は羽村市独自、この年からずっと私も関わっている）でも、お訪ねしてお話を聞き、宏行さんのお墓にお参りをし、といったことを続けてきました。2014年からは一法さんの紹介で、近くに住む小畑さん（広島二中2年生で、最後に宏行さんを見舞った方）にも来ていただいてお話を聞くようになりました。

しかし、ここ2年間コロナのために実施できなかった間に体調を崩され、お会いできるか…？とも思っていたのですが、元気に迎えていただき、宏行さんお墓にも案内していただきました。

ただ、現実的には8月5日に訪問することは難しそうです（小畑さんも2019年からみえていません）。でも、だからこそ、今年は広島に出かけ、聞ける方からお話を聞いてきたい、と思っています。

「…七日の明け方、カンづめのモモをはれたくちびるの間からおしこんでやりますと、おいしいよ、と喜んでくれました。……近くの中中の二年生の方が見舞いにきてくれましたときも、はっきりとした口調で話をしていたのですが、その人が帰られた直後…、死んでしまいました。」（『いしづみ』宏行さんのお母さんのお話。その先輩が小畑さん）

